

令和元年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 霧島市立国分中央高等学校

1 目的

農業への興味・関心を高め、農業を進路の一つとして捉えられるように、専門的な学習の取組みで、農業者としての能力や態度を育成することを目的とする。

2 実施状況

(1) 視察研修の実施（活動内容、効果）

1年生は、農業大学校で学校施設等を見学し、将来の進路について考えを深めた。セイカ食品株式会社では、製造工程を見学し、6次産業について学んだ。



1年視察

2年生は、各専攻班で視察を行い、先進農家、市場や物産館の販売所、酒造会社等を視察し、農業経営感覚を肌で感じた。生徒の中には、「霧島の歴史、文化、観光、食を融合させた農業をしたい」と感想を述べた。

(2) 農業体験講話の実施（活動内容、効果）

萬田農園萬田正治氏による合鴨農法を通して「地域の農業」や「命」、「食」について話していただいた。農業の意義を学ぶ機会となり、生徒も興味も深く聴講した。



農業体験講話

(3) HACCPシステムトレーニングの実施（活動内容）

国際水準GAPは、食品安全規格であることからHACCPシステムの考え方が不可欠であるため、2年生37名を対象にトレーニングコースを受講した。

3 今後の課題

近年、農業を取り巻く環境も多様化し、農業経営に加工、販売、マーケティングの視点も必要となってきた。視察研修や農業体験講話にこの視点を加えた。特に、新学習指導要領では、GAPやHACCPを取り入れた農業経営感覚の醸成が大切な視点となっている。そこで、HACCPシステムトレーニングコースを受講した。生徒の反響もよかった。今後、持続的に実施できるかが課題として残った。



HACCPシステムトレーニングの様子

今年度の卒業生にも農業関連産業へ進む対象者は、4年制大学1名、農業大学校3名、農業協同組合1名の計5名であった。農業を将来の職業として考える人材の育成に今後も取り組んでいきたい。